

平成25年度 事務事業マネジメントシート

| | | | | | | | | |
|-----|------------|-----------------|-----------------------------|------|-------|----|----|----|
| 事業名 | 特別支援教育推進事業 | | | 会計 | 款 | 項目 | 大 | 小 |
| | | | | 01 | 10 | 01 | 04 | 03 |
| 政策 | 03 | 3節 | 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上） | 主管課 | 指導課 | | | |
| 施策 | 3-2 | 個性を生かす教育環境の基盤充実 | | 主管課長 | 矢内 智子 | | | |

I 事務事業の目的・内容

| | | | | |
|-----------------|---|-------------------|----|--|
| 事業目的 | 対象 | 特別に支援が必要な幼児、児童、生徒 | 意図 | 発達障害や不登校等で、学級内での学習が困難な児童生徒に対して学習の場を確保する。知的・情緒・言語・聴覚障害等の児童生徒に対し、一人一人のニーズに応じた指導を |
| 事業内容 | 言語障害や発達障害などの理由により、特別な支援が必要な幼児、児童、生徒に対して継続的に、関係機関と連携して支援できるように財政的支援を行う。 関係機関が相互に共通理解を深め、よりよい支援ができるよう研修の充実を図る。 | | | |
| 事業開始から現在までの状況変化 | 特別な支援を要する児童生徒のための特別支援教室は全校設置することができ、学校での活用が図られている。一人ひとりのニーズに応じた専門的な指導が行えるように、通級指導教室、特別支援学級の充実を図っている。学校に学ぶ場があることによって児童生徒個々の力を伸ばすことができている。教員の特別支援教育に対する理解を深め、子どもに寄り添った指導に努めている。 | | | |

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

| 指標 | 名称 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 単位 | 目標方向 | 算定式（成果指標の場合） |
|--------------------------|---|-----------|-----------|-----------|----|------|--------------|
| | | | | | | | |
| 指標 | ① 特別支援教室設置校数 | 23 | 23 | 23 | 校 | →→ | |
| | ② 通級指導教室設置校数 | 7 | 7 | 7 | 校 | ↑↑↑ | |
| | ③ 特別支援学級設置校数 | 12 | 13 | 15 | 校 | ↑↑↑ | |
| | ④ | | | | | | |
| 指標で表すことができない定性的な成果 | 目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 特別な支援が必要な幼児から児童生徒に対して、個別的教育支援・指導計画を作成し、サポートファイルを通じて保護者と情報を共有できるようになってきた。 教員が専門的な助言や援助を受けたり研修したりすることによって、障害に応じた適切な指導に努めることができるようになってきている。 対応の難しいケースは、関係機関等の専門家を招集し、支援方法を検討するなど、適切な対応ができるようになってきている。 | | | | | | |
| 事務事業のコスト | | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | | | |
| 事務事業の総コスト(a=b+c) | | 1,310,633 | 1,498,010 | 2,837,311 | | | |
| 事業費(b)(円) | | 1,310,633 | 1,498,010 | 2,837,311 | | | |
| うち一般財源 | | 1,310,633 | 1,498,010 | 2,837,311 | | | |
| 職員給与費(c)(円) | | | | | | | |
| 人役・職員(人) | | | | | | | |
| 人役・再任用(人) | | | | | | | |
| 人役・臨職(人) | | | | | | | |
| 人役・嘱託(人) | | | | | | | |
| 初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入） | | | | | | | |
| 想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入） | | | | | | | |

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

| | | | | | | |
|------|----------------------|---------|-----------------|-----|---------|-------------|
| 個別評価 | 必要性 | 今後の必要性 | A 必要性が高まると考えられる | 有効性 | 目標達成度 | B 達成できなかった |
| | | 市関与の必要性 | A 市が担うべき | 効率性 | 対象者の適切性 | A 対象者は適切である |
| | | | | | コストの削減 | A 削減の余地はない |
| 総合評価 | I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき） | | | | | |

(2) 事務事業の業務改善について

| | | | |
|--------------------|---|----------|--|
| ①今年度(H25)の改善計画 | 特別な支援を必要とする児童生徒一人一人のよりよい教育環境のために、さらなる事業の拡大を図る。 | ③取り組みの課題 | 市内全小中学校に特別支援学級または通級指導教室を設置することを目標に取り組んだが、本年度は2校にとどまった。今後さらに増やしていきたい。 |
| ②今年度(H25)に実施した取り組み | 医療、教育、福祉など関係機関の担当者が集まり、特別支援連携推進協議会を開催した。知的の特別支援学級を小学校2校、難聴の特別支援学級を小学校に1校新規開設した。 | ④今後の改善計画 | ・特別支援学級または通級指導教室を市内全小中学校に設置できたが現状からさらに増設を検討したい。 ・障害に応じて適切な指導ができるように教員の研修を充実させる。 |